

# 令和7年度 第2回戸畑医療・介護従事者研修会

◆日 時:令和7年11月13日(木) 18時30分～20時00分

◆場 所:戸畑区医師会館 4階講堂

◆講演内容:【第1部】 地域の皆で考えるHIV診療～HIV診療最前線と今後の問題点～

講師:戸畑総合病院 病院長 齋藤 和義先生

【第2部】 HIV陽性者・AIDS患者の対応・支援について

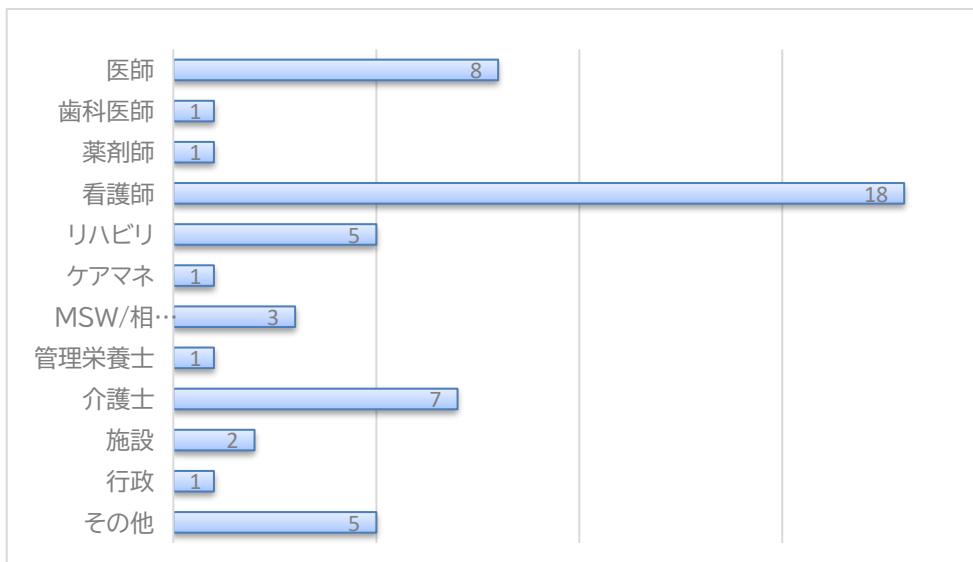
講師:産業医科大学病院 HIVセンターコーディネーター看護師

田中 美佐子先生

◆参加者:61名 (内訳:講師2名、参加者56名、事務局3名 )

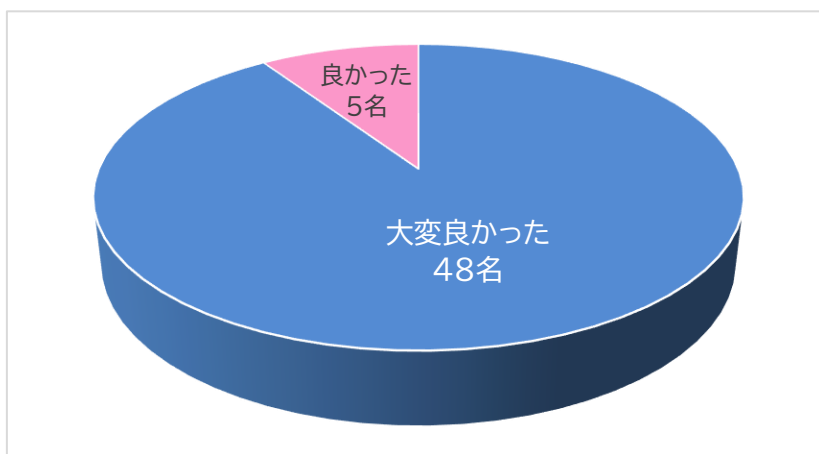
◆アンケート集計結果 n=53 回収率89.8%(講師除く)

## 1、回答者の職種分布



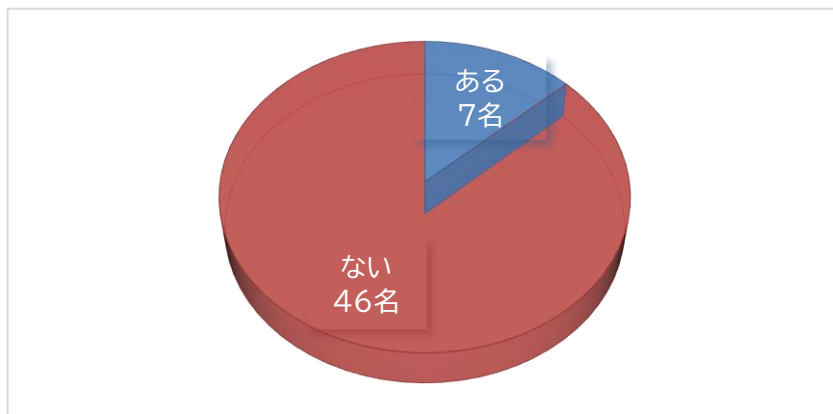
## 2、講演会の内容について

100%の方が「大変良かった」「良かった」と回答



あまり参考にならない 0人  
参考にならない 0人

### 3、ご自身が従事している機関でHIV/AIDSの勉強会はありますか？



### 4、研修内で印象に残ったこと、感想など

○HIVに関して非常に分かりやすかった

○高齢になった患者様等の継続医療が今後大変になりますね

○詳細な知識を保つことができた。今日の資料をスタッフと共有します

○治療の進歩でHIVがコントロールされ、U=Uが実現されていること。様々な行政からの補助があること。感染について恐れる特別なウィルスではないこと、予防内服で感染を抑えられていることなど。

○治療の継続によりHIVが検出限界以下であれば性生活や育児が可能とのことは知らずにいた

○HIVは死に至る病気ではなく、人に感染させることも防止できる疾患であるが、未だ根絶難しく、かつ高齢者にも一定感染者がいるということを再認識させられた。我々の身近に感染者と一緒に生活していることを念頭において、差別することなく医療者として対応すべきと教えられた

○事例紹介で、疾患だけでなく生活面でのサポートということも大切だということが理解出来ました

○具体的な対策、わかりやすかった。パンフレットも参考にします

○訪問看護の支援により病気の進行なく健康維持に繋がったことにおいての事例では、少しでも今回の研修で学んだので自信が(知識を得たこと)について患者さんに関わることが出来ます。医学的な進歩から「怖くないHIV」という意識が持てました

○針刺し対応をする立場にあるが、リスクは理解していたものの、より深く理解出来ました

○あまりHIVやAIDSの研修を受けることがなかったので新鮮でした。HIVやAIDSのことは病院での話と聞いていましたが、患者さんが高齢の場合もあるので、介護の場でも対応する必要があると気づき、知識を学んでおくことは大切だと感じました。

○HIVやAIDSとなれば重症化するイメージがありましたが、継続内服で検出限界値未満であれば出産も可能ということを知りました。知らないだけで身近に患者さんや利用者の方とお会いする機会があると思うので、寄り添えるよう関わりたいです。ありがとうございました。

○大変分かりやすい内容で勉強になりました

○HIVの研修に参加することがなく、とても理解しやすく興味深い研修でした。詳細に説明していただきました。

○HIV治療において根治ではなく継続治療で対応する現在の様子がわかりました。本人のQOLと治療の必要性の有無の判断をする事が重要と感じました

○HIVはなんとなく怖いイメージがありましたが、今回の講義を受けてイメージが変わりました。感染対策や制度についても勉強になりました。

○感染症と精神疾患に関しての個人情報の取り扱いは本当に慎重にしたい。このHIV/AIDSという病気は”人”を考える疾患だとも思いました。U=Uや長期療養ケアについても新たに学ぶことが出来ました。

○HIVは治療を受けていたら感染力も低く支援者側が他の感染症と比べ、特別に怖がって接する必要はないということが知れて大変勉強になりました。

- HIVやAIDSについて印象を改めて認識することができた。また、患者様への配慮について学ぶことができたため、今後遭遇するケースに対する適切な対応をする時だけでなく、他のケースの際にもつなげて行こうと思える講義であったと感じた
- 感染予防として標準予防策で十分という話。言われてみればそうだなと再認識できました。
- 地域での支援や家族含めての長期療養ケアに向けた関りの重要性
- HIV/AIDSのことは少しだけは知っていましたが、詳しくはあまり知らなかった。今回詳しく内容を知ったところ、現年齢が40～59歳が60%と多いことに気づいた。性行為以外にも感染するので普段から気を付けていきたいと思う。HIV/AIDSの治療法はあまりなかったのが、今は進化し患者様も安心することが知れた
- HIVの現状について深く学ぶことができました
- HIV治療が進み、死亡する病気ではなくなって病院だけでなく自宅や高齢者施設で生活していく方が増えていること、身近にある感染症になりHIVについてもっと学ばなければいけないと思いました
- HIV血液暴露時の対応 医療機関や内服の必要性、時間内など
- HIVは根絶できないのですね。うまく付き合っていくことが大事のようですね。社会保障が利用できるのは知らなかった。医療費助成があるのは助かると思いました
- HIVの方に近づくことが怖かったですが、大丈夫なんだというのが分かり安心しています。今は身近にはいないのですが、今後支援が必要なときは安心して対応できると思います。
- 感染経路で唾液も入っているのかと思っていた。これから介護が必要な人が増えてくることを知り、やはり知らないことは怖い事、で、知ればHIVの方は怖くないと気づきました
- 抗HIV治療薬の改善で死亡率の低下、高齢者のエイズ患者の多さにびっくりしました
- 高齢者にも多くの感染者、発症者がいると分かり、今後高齢者支援を行う上で地域でも出会う機会が増えてくることを知りました。服薬により長期療養が可能であること、治療の効果が高い事が分かりました
- 定期的にHIVの研修をしてほしい
- 治療の進化と今後の生活支援を改めて考えた。若い方(学生等)に学べる機会があれば良いと思った
- HIVの感染者の分布と感染経路・感染要因の関連がよくわかった。暴露した時の対応(産医大に相談できる)。検出限界値未満を維持できれば感染するリスクがなくなるということ

## 5、今後どのような研修会を望みますか？

- 耐性菌患者の地域での対応、情報共有など
- 嚥下障害の研修 体験型学習
- ユマニチュードの研修に参加したいです
- 他の免疫治療について
- 加齢にともなう血管性疾患